

気象界消息

1. 中国から顧震潮博士来日
11月28日、中国から学会の招きに応じて顧震潮博士が来日した。
2. カント博士来日
ドイツ気象台、航空気象課(オッヘンバッハ)の次長 Dr. Gerhard Kant は12月3日から8日の間、慣熟飛行と日本の気象、特に航空気象視察をかね、訪日した。
3. カシミール博士来日
アメリカ陸軍エレクトロニクス研究所の気象電気学者の Dr. H. W. Kasemir は日米電気ゾンデの比較観測のため、12月3日~12月7日訪日した。
4. 北海道北部に雪
11月17日、今冬初めて除雪車の運転が必要となった雪が北海道北部をおそった。気温が零下 12°C にまで下った所があるとのこと。
5. イギリスの旋風
11月18日、北海に面したオーフォードの町を悪夢のような旋風が3分間あれ狂った。屋根をもっていかれた家が10戸、自動車が2台、その残がいの下敷になったとのこと。
6. 北大西洋に新島
アイスランドの近くに、海底火山が発生し、11月15日の調査では40mの高さに、400mの長さの新島が出現したという。
7. ハイチに洪水と山くずれ
11月14日から15日にかけて、ハイチには豪雨のための洪水と山くずれが発生し、約500の死者をだしたと報じ

られている。

8. イギリス南部の大雨
11月19日、イギリス南部からヨーロッパ北部におよぶ嵐が猛威をふるった。サセックスとケント地方は特に洪水のため、農地が多量の被害をこうむったと報じられている。なおサザンプトンからルーヴルに向ったフランスの60,000トンの巨船フランスは強風のためクレーンと衝突するといった事故があった。
9. 沃化銀は人工降雨に不適当か?
Lehigh 大学の Dr. A. C. Zeffemoyer は最近人工天気改変のプロジェクトを指導してきたが、その結果、過去長年にわたって使用されてきた沃化銀は親水性の物質ではなくむしろ疎水性ともいうべき物質であるから、雲のシーディングには適してないとのべている。
10. 西日本へ初寒波
11月20日、西日本に今冬、初めて寒波が襲った。大阪には初あられがあり、六甲山は初冠雪をいただいた。これは平年に比べて9日おそい。
11. 北海道にも寒波
11月30日、十勝(-20°C) 旭川(-12.7°C) 帯広(-13°C) 釧路(-7°C) と気温が下った。学校では今冬の初すべりとスケートでにぎわう学童が多く見られた。
12. 濃霧、関東南部に発生
12月5日、関東地方南部に濃霧が発生した。東京で視程が次第に悪くなり、7時と8時の間には700mにまで悪くなったのをはじめ、300mの視程になった所があった。このため交通がかなり混乱し、電車がおくれた。

理事会だより 第18回 常任理事会議事録

日時 昭和38年11月18日(月) 17.00~20.00
場所 神田学生会館
出席者 正野、今井、須田、松本、畠山、吉武、岸保、村上各理事(順序不同)
肥沼、日下部各評議員

波 議

1. 国際雲物理学会議は1965年6月上旬日本(東京、札幌、名古屋)で開催し組織委員会の委員長には畠山氏をおす。
2. 国際雲物理学会議開催の正式承認は来春の総会で行う。
3. 理事会から組織委員会の委員として正野、岸保、淵、吉武がくわわる。
4. 昭和39年度学会賞、藤原賞審査委員を須田建(幹事)、磯野謙治、松本誠一、石井千尋(委員長)井上栄一の各会員にお願いする。

5. 昭和39年度文部省科学研究費等分科審議会委員候補者として正野重方理事をすいせんする。
6. 日中学術代表団の一員として来日する顧震潮氏のレセプションは12月3日(火)の夜、講演会は12月7日(土)午前中行う。場所については実行委員会に一任する。
7. 顧震潮氏の訪問先として東京大学、気象研究所、気象庁を予定し、それぞれの長宛にその旨を文書でお願いする。
8. 顧氏の講演内容は
大学では 気象力学
気研では 中国研究所の現況
学会では 雲物理の現況
を予定する。
9. 気象研究ノートの編集委員として内藤恵吉(気研)会員を更をお願いする。